

御前における全き歩み

創世記一七章

アブラムが九十九歳の時、主はアブラムに現れて言われた。「私は全能の神である。私の前に歩み、全き者でありなさい。」(一)

約束の子が与えられないまま時が過ぎ、アブラハムが九十九歳になったとき、主が長い沈黙を破って今日の言葉を語られました。全能の神に信賴して生きよ、という命令でした。信仰において全き者であるとは、「私の前に歩み」と命じられてるように、どんな時にも神の御前を歩むということです。「前に」という言葉は、「顔の前に」という意味です。神のまなざしが届くところを歩むということです。私たちは罪を犯したアダムのように、神の顔を避けてしまうことがあります。しかし、私たちがどんなに神の顔を避けたとしても、神から逃れられることはできません。神は私たちを愛し、どこまでも追いかけて来てくださいます。それゆえ、そのインマヌエルの神の御顔を仰ぎながら、どんな時にもその御前を歩み続ける私たちでありたいと願います。